

朝見まちづくり

朝見地域計画書



写真提供 朝見上地区土地改良区

朝見まちづくり協議会
地域計画策定委員会

目 次

I. 朝見地区の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 ページ

- (1) 地理
- (2) 産業
- (3) 歴史
- (4) 観光
- (5) 伝統・文化・行事
- (6) 朝見地区の年齢構成別人数
- (7) 朝見まちづくりの現在までの取り組み

II. 地域の主な問題と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7 ページ

- (1) 10 町がそれぞれ独立した存在
- (2) 市街化調整区域にあって、人口の減少、特に児童数の減少と高齢化の問題と農業離れが進む現状
- (3) 静かでのんびりした環境と穏やかな人柄
- (4) 働く楽しき・喜びをいつまでも持ち続けて働けるシステム
- (5) 外に向けて何が発信できるか
- (6) 朝見の農業は

III. 地域の将来像・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9 ページ

IV. 地域の目指す姿・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9 ページ

- (1) 人的交流・教育・文化・福祉分野
- (2) 防犯災害分野
- (3) 自然や環境・エコ分野
- (4) 地域振興分野
- (5) 人材育成分野
- (6) 地域の伝統や文化財の分野

V. まちづくりの具体的計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10 ページ

- (1) 人的交流・教育・文化・福祉分野
世代を越えたコミュニケーションが取れる町
- (2) 防犯災害分野
安心安全のまちづくり
- (3) 自然や環境・エコ分野
自然環境を守り・美しいまちづくり
- (4) 地域振興と人材育成分野
- (5) 地域の伝統や文化財の分野

(附 1) あさみまちづくりがめざすまち (図化したもの)

(附 2) 朝見の人口分布 (平成 26 年 8 月)

朝見地域計画書

I. 朝見地区の概要

(1) 地 理

松阪市東部に広がる平地に位置し、東には櫛田川、西には真盛川が流れ、南には県道 37 号線、北には国道 23 号線が走る。この地は、主に櫛田川の氾濫原として形成された肥沃な土地で、平地のほとんどが水田となっている。

朝見地区は、朝田町、立田町、和屋町、上七見町、下七見町、新屋敷町、大宮田町、佐久米町、古井町、西野々町の 10 ケ町からなり、集落のほとんどが河川によりできた自然堤防上に位置している。

(2) 産 業

県道 37 号線沿いに、中小規模の工場・作業場、飲食店、ガソリンスタンド、コンビニ、自動車関係の店舗、材木店が、県道 59 号線沿いに新しい住居が建設されているが、この二本の道路沿いを除いては、農業調整化区域に指定されているため、米作りを中心とした農業が行われている。

しかし、近年、農業従事者の高齢化が進み、若者の農業離れもあって、大規模農家に耕作地を預けて、これまで続いた農業に終止附を打つ農家が増えている。今後この傾向が進み、大規模な農家への農業の一極化が進むことは避けられないのが現状である。

米作り以外には、軒数は少ないが、苺やキュウリ、松阪牛の肥育に取り組む農家もある。

そうした流れの中にあって、畑で採れた野菜を『きつするくろべ』やスーパーの地場産のコーナーに出して、育て売れることに喜びと楽しみを感じている方もあり、畑の荒廃を避けるためにも、こうした楽しみの農業を残しておくことは大切なことである。

(3) 歴 史

国道 42 号線松阪・多気バイパスに伴う発掘調査や、朝田町・立田町・和屋町の圃場整備に関わる発掘調査によって、古代から中世に至る当地域の様子が少しずつ明らかにになりつつある。

朝見の地に人が住み始めるのは縄文時代中期末（4000 年少し前）のこと、集落の存在が確認できるのは、弥生時代後期になってからのことである。

古墳時代の遺構としては、佐久米古墳群（大塚山・丸山塚・糠塚）があげられる。大塚山古墳は、明治 33 年、県道の工事により墳丘が削られてしまい、現在は畑となっているが、全長 45m の帆立貝式古墳であったと推定され、眉庇付冑や銅鏡 3 面、勾玉・鉄刀片等が出土している。また、金剛川と真盛川との間に位置する糠塚からも銅鏡 2 面が出土している。古墳の形状や出土品から、5 世紀後半には、この地に

有力な豪族がいたことが想定される。

奈良時代・平安時代の伊勢と都を結ぶ道、参宮古道は大平尾から石津・郷津・高町・岸江・朝田・立田・清水を通っていた。斎王の群行が、志摩の海産物がこの地を通り、室町時代にはおかげ参りの旅人で賑わいを見せた。また、和屋は、猿楽や田楽の伊勢三座のひとつ、和屋太夫が居住した地でもあった。

発掘で発見される遺構・遺物の多くは奈良時代以降中世に至るもので、それは、この地が参宮古道筋にあったことから容易に予想される。また、和屋から上七見にかけては条里制の遺構も残っており、古代・中世・近世と脈々と米作りが行われていたことが偲ばれる。

ただ、今回の圃場整備により、和屋町の条里遺構はすべて消失してしまった。これも今後の朝見の農業の方向を選んだ農家の方々の望む方向であれば、残念ではあるが、記録として留めるほかはない。

天正 16 年(1588) 蒲生氏郷は四五百の森に松坂城を築き、城下が栄えるようにとこれまで通っていた参宮古道を付け替えるが、朝田寺に残る絵馬や曾我蕭白の水墨画、清水の民話は、江戸時代になっても、この地を通る旅人があったことを物語っている。

逸話や彫刻等、そうした歴史を物語るものとしては以下のものがある。

穴師神社（立田町）と丹生の水銀にまつわる話

立田町集落西に位置する空也上人（903 頃～972）の碑とそれにまつわる話

立利啜の古戦場（北畠氏と織田氏）

長田忠致と意非多神社（朝田町 土の宮）

真盛上人（1443～1495）と真盛川

朝田寺の地藏菩薩立像（平安時代前期・重文）・聖観世音菩薩を含む 15 体の平安時代の仏像や絵馬

古井集会所の多聞天立像（平安時代後期）

安養院の阿弥陀如来坐像（鎌倉時代）・十一面観世音菩薩（南北時代）

（4）観 光

唯一観光としてあげるとすれば、朝田寺であろう。

朝田寺の本尊地藏菩薩立像は、三重県の国宝指定第 1 号（現在重要文化財）で、拝観に訪れる方も多し。また当寺は、牡丹や紫陽花、蓮等、花の寺としても知られ、牡丹の開花時期には、市・県外から多くの花見客が訪れる。また、当寺には重要文化財 4 点を含む 11 点の曾我蕭白の作品が所蔵されており、4 月 20 日から 5 月 5 日の公開には、蕭白目当てに県外から足を運ばれる人も多い。

（5）伝統・文化・行事

朝見地区には、農耕に関わる伝統行事、伊勢三座の一つである和屋座に関わる行事、朝田寺の地藏盆に関わる行事などがある。

朝見地区に残る伝統行事としては、和屋町・立田町・朝田町に渡って行われる『よいよい神事』、上七見町の『射止め神事』、上七見・下七見の『浅間まつり』、和屋町の『虫送り』、佐久米町の『山の神』等豊作を願う農耕儀礼に関わるものや、和屋町の面塚で能面に善願成就を願い『能面にお参りする行事』等がある。

朝田寺の掛衣の風習は、全国でもここだけの風習であり、地蔵盆（8/6～23）には天井に掛かる衣類に手を合わせ故人の冥福を願う参詣者で賑合う。23日の本日には、境内で採灯護摩や盆踊り、打ち上げ花火などの諸行事があり、お地蔵様の厨子の扉を閉じる閉帳の儀のあと、衣類を焼いて8日間のまつり事が終わる。

（表1）朝見地区に残る行事 ●はかつて行われていたが、近年になってやめてしまった行事

月・日	行 事	町 名	備 考
1月～2月	○どんど火		一年間かけたしめ縄を焼く
節分	●まめ占い	下七見	竈に乗せた豆の茎の焼け具合で豊作を占う
2月	○八雲神社祭典	大宮田	
2月	○御園神社祭礼	佐久米	酒飲み神事とも言われ、佐久米町の人たちが肴を持ちより、酒を酌み交わす
2月11日	○よいよい神事	和屋 立田 朝田	鎌倉時代から伝わる700年以上続いている行事。市指定無形文化財
2月11日	○奈々美神社祭典	上七見	
2月	○新嘗祭	立田	穴師神社
2月15日	○射止め神事	上七見	豊作を祈る神事、昭和56年に復活
2月	○意非多神社大祭	朝田	
2月	○朝田寺大般若会	朝田寺	奈良時代から続く祈祷会、大般若経600巻を転読
3月	○八雲神社春の祭典	西野々	
3月	○涅槃さん	大宮田	
4月	●豆腐焼き	朝田	農繁期を前に講衆で味噌田楽
4月	○花祭り	古井	55年ぶりに復活
4月	○報告祭（八雲神社）	西野々	入学・卒業・出産・厄等
5月8日	○花祭り	大宮田	
5月	○浅間祭り	上七見 下七見 ●大宮田	水の神を祭る川まつりと浅間信仰が合体したもので、上七見は5月下旬、下七見は6月末の土・日
6月1日	○日浜参宮	上七見	
6月30日	○浅間祭り	和屋	
7月13日	○虫送り	和屋	
7月14日	○天王さん	和屋	
7月14日	○奈々美神社祭典	上七見	
8月	○護摩供法要	大宮田	
8月	○盆施餓鬼		
8月15日	○初盆送り	朝田	太鼓をたたき精霊を送る
8月15日	○百万遍	古井	
8月16日 ～23日	○朝田寺会式	朝田寺	市域全体に及ぶ行事。初盆・三回忌・他ご先祖の供養が行われる。

8月28日	○大日さん	和屋	
9月1日	●百萬遍	西野々	薬師寺
9月6日	○行者まつり	朝田	役小角に豊穰を願う
9月16日	○翁面参り	和屋	和屋町集落北の面塚で行う、能面にお参りする行事。この時いただいた杉の小枝を戸口に飾ると病気にかからないとされる。
11月1日	○奈々美神社祭典	上七見	
11月～12月	○山の神		子どもの数の減少とともに、消えつつある。
12月1日	○ものとう	和屋	秋の感謝祭として会食する行事
	●なます神事	下七見	
12月16日	●秋葉さん	下七見	
12月	○八雲神社 大祓	西野々	
31日	○除夜の鐘	朝田寺	

(参考:詳細は朝見小学校100年誌)

(6) 朝見地区の年齢別構成人数(別表1)

別表1は、朝見地区10町について、0歳から4歳、5歳から9歳のように5年を区切りとして男女別の人数を表にしたものである。この表から考察できることをいくつか挙げる。

- ① 66歳～69歳を頂点として、若い世代ほど人数が少なくなっている。
- ② 立田町・和屋町は、他の地区に比べ、世帯数・居住者数とも2倍～3倍と多く、若年世代も多い。
- ③ 0～19歳までの人口の地区総人数に対する割合を見ると
20%を超えるのは2町で5町が15%を下回る

(表2) 0～19歳の人口の割合

町名	割合%	備 考	町名	割合%	備 考
西野々町	22.0	35÷159	大宮田町	13.8	22÷159
和屋町	21.1	104÷493	佐久米町	12.3	17÷138
古井町	18.7	27÷145	上七見町	11.2	17÷152
下七見町	18.5	33÷178	朝田町	6.7	14÷209
立田町	15.9	64÷403	新屋敷町	6.3	9÷142

- ④ 65歳以上の高齢者についてみると、上の表の左側が高齢者の割合が低く、右側が高くなるのは当然であるが、ほとんどの集落が30%～40%の範囲内に入る。ちなみに朝見全体でみた高齢者率は30.8% ($672 \div 2178 = 30.85$) で、平成25年10月1日の全国平均 ($3,190 \div 12,730$ 万人) 25.06%を遥かに超えている。全国平均が30%を超えるのは平成37年以降と予想されることからすれば、10年早く高齢化が進んでいることになる。

(表 3) 65 歳以上の人口が占める割合)

町名	割合%	備 考	町名	割合%	備 考
朝田町	42.1	88÷209	西野々町	32.7	52÷159
佐久米町	39.1	54÷138	下七見町	30.9	55÷178
新屋敷町	37.3	53÷142	立田町	28.8	116÷403
大宮田町	35.8	57÷159	古井町	28.3	41÷145
上七見町	34.9	53÷152	和屋町	20.9	103÷493

(7) 朝見まちづくりの現在までの取り組み

平成 18 年 7 月 26 日、朝見まちづくり協議会が立ちあがって 9 年が過ぎた。その間様々な取組がなされ、多くの方が運営に携わってきた。

昨年 2 月、事務局長として、朝見まちづくりを牽引してきた鈴木三千夫氏を亡くしたことは、当まちづくりにとって大きな痛手であり、人的損失であった。病気が発覚してもなお、命の火を燃やし続け、その火が消える最後まで、あさみまちづくりの中心的な役割を果たした氏の生き様に対して敬意を表するものである。氏の意志を引継ぎ、今後のあさみまちづくりを発展すべく力を注ぐことが、彼の死に報いる最良の方法であろう。

あさみまちづくり設立当初の根幹に据えたあさみの将来像は『ありがとう 地域のみんなが支え合い助け合えるまち』で、それを実現するために、《①世代を超えたコミュニケーションができるまち ②安心・安全のまちづくり ③地域のことをみんなで作られるまち ④自然環境を守り美しいまちづくり》の 4 本の柱が設定された。

その 4 本の柱にしたがって、これまで取り組んできたことを振り返ってみる。

事業主体がない項目は、項目の具現化がなされていない。

①世代を超えたコミュニケーションができるまち

(表 4-1)

③地域のことをみんなで作られるまち

この二つの柱は、共通する部分が多く、世代を超えたコミュニケーションができることが地域のことをみんなで作ることにつながることであり、地域のことをみんなで作ることが世代を超えたコミュニケーションを作っていくことになる。これを実現するために、以下の行事が行われてきた。

公民館とまちづくり運営委員会、まちづくりの青少年部会・福祉部会が主として事業の運営にあたってきた。

②安心・安全のまちづくり (表 4-2)

防犯パトロール・ふれあい防災訓練については、朝見まちづくりとして特に力をいれてきた事業である。

当初部員の自家用車で始まった自主的な防犯パトロールは、寄贈を受けた専用車を経て、平成 23 年には青パトが認可され、現在週 2 回のパトロールを実施し

ている。また、小学校3年生の児童にも同乗の機会を作り、防犯への意識向上に取り組んでいる。

ふれあい防災訓練は、毎年小学生も参加し、地区をあげて実施しており、今年度で第10回を迎えた。平成22年12月4日には、三重県の防災大賞を受賞し、県内外からの視察を受けることも多い。

③自然環境を守り美しいまちづくり (表4-3)

農業が主たる産業である朝見地区にとって、水田に水を潤す河川は大切であり、河川の美化は美味しい米づくりに通じるものである。環境部会が中心となって、朝見10町で取り組む「幹線水路一斉清掃美化活動」は今年度で第10回を迎える。

また、冬になって水が無くなる河川の水溜りに残された魚の救出作戦や毎年パンジーの花の苗を配る「花いっぱい運動」は、将来、子どもたちが命ある自然を大切にしてほしいとの願いから始まった、まちづくりと小学校とが連携した活動として意義あるものとする。

(表4-1)

目的	項 目		実 施 事 業		実施主体	
世代を越えたコミュニケーションが取れるまちづくり	子育ての悩みを打ち明ける仲間		ひよこ教室		青少年部会	
	地区のみんなが一緒に参加できる行事づくり	世代を超えた地域全般に関わる行事	地区体育祭		公民館	
			チーム対抗グラウンドゴルフ大会			
			三世代ふれあいグラウンドゴルフ			
			町対抗ビーチボールバレー大会			
			文化祭			
			朝見夏まつり		まちづくり	
			朝見ふれあい芸能大会		まちづくり	
		一般対象の行事		新春ボウリング大会		公民館
		高齢者対象の行事	高齢者学級	健康体操		
				医師の健康講座		
				なつかしの歌		
				歴史探訪		
				講演会		
		東部管内ゲートボール大会 春・秋				
	子どもとの関わりを持った行事	親子健やか体操		公民館		
		親子ふれあい「星座観察会」		公民館		
		ふれあい交流会		青少年部会		
		児童と三世代との交流会		福祉部会		
		餅つき及び軽スポーツ大会		地区福祉会		
高齢者の6年生を送る会		地区福祉会				
高齢者を支える行事		敬老会		地区福祉会		
		ひとり暮らしの方にXマスケーキを		地区福祉会		
		高齢者配食サービス		地区福祉会		
		地域敬老事業（市交付金）		まちづくり		
		出前講座		福祉部会		
認知症に対する理解と予防		認知症サポーター養成講座		福祉部会		
子育てを応援できるしくみ		あさみきっずくらぶ（H27年4月～）		青少年部会 小PTA		
あいさつの輪を広げる取り組み						
子どもも大人も安心して遊べる公園づくり						

(表 4-2)

目的	項 目	実 施 事 業	実施主体
安心・安全のまちづくり	防犯に関わる活動 安全パトロール	防犯パトロール	防犯部会
		防犯灯の設置	まちづくり
	災害に備えての非常時対応	防災講演会	防災部会
		ふれあい防災訓練	
		家具転倒防止の啓発	
	普段の付き合いを大切にするまち		
	下校時の子どもの見守り・声かけ		

(表 4-3)

目的	項 目	実 施 事 業	実施主体
自然環境を守り 美しいまちづくり	○自然を残す		
	○ゴミのない町	ゴミ集積所のマナー	自治会
		資源回収	自治会
	○環境保護のための 美化運動	幹線水路一斉清掃美化活動	環境部会
		ペットのマナー（犬の糞）	環境部会
		花いっぱい運動	まちづくり 小学校
	○生物の保護	魚救出作戦	まちづくり 小学校
	○美化啓発推進事業	環境啓発ポスターコンクール	環境部会

その他

その他の活動としては、朝田寺の牡丹の季節に境内を借りて行う「あさみ田楽」、松阪牛まつりに販売している「松阪牛肉入り味ごはん」がある。

かつて朝田町では、農繁期に入る前に、それぞれの講衆が集まって、豆腐田楽を食べる慣習があり、それぞれの講衆による味の異なる味噌が自慢であった。また、人が集まると味ご飯（鶏肉の入った五目飯）が振る舞われることが多かった。そうした食文化をまちづくりに取り込もうと始まったのが、『朝見田楽』・『松阪牛肉入り味ごはん』である。

Ⅱ. 地域の主な問題と課題

(1) 10 町がそれぞれ独立した存在

朝見地区は、10 町が距離をおいた状態で位置し、それぞれがまとまり、それぞれの町の行事を行ってきた長い歴史があり、自治の面でも精神的な面でも独立した傾向が今に続いている。朝見地区としてのまちづくりを行う上において、10 町の枠をこえた『あさみ』という大きな目線で考え、行動していく必要がある。

(2) 市街化調整区域にあって、人口の減少、特に児童数の減少と高齢化の問題と農家離れが進む現状

朝見のほとんどは農地で、県道 37 号線・59 号線沿い以外には、住宅や商業・工業用地を確保することはできない。よって、和屋・立田・大宮田町以外は、直系の家族が分家を築く以外は、外からの人口の流入はなく、集落の戸数が増えることはない。また、米作りだけで生計が成り立たないことが農家の存続を困難にし、農業離れが進行し、家を離れて働く若者も少なくない。そのことが、児童の減少につながり、高齢化が進む要因となっている。

(3) 静かでのんびりした土地柄と穏やかな人柄

朝見小学校に赴任した先生の誰もが、子どもも保護者の方も穏やかで、教育面でも取り組みやすいとおっしゃる。おじいちゃんがいて、おばあちゃんがいて、親がいて、ここには世代をつなぐ家族の姿がある。お米があって、野菜があって、贅沢をしなければ食べることに困らない。穏やかでのんびりした空気がある。

そうした環境から、朝見に住む方は、押し並べて穏やかでおとなしく、のんびりした方々が多い。それは長所でもあるし、短所でもある。

人の前に立って、よい方向に導こうという人材が育ちにくいこと、頼まれればやってくれるが、自ら進んで活動に参加する方が少ないことである。

(4) 働く楽しみ・喜びをいつまでも持ち続けて働けるシステム

90 歳を過ぎても、畑仕事をし、自転車に乗っている老人をよく見かける。きつするくろべや J A の集荷場に野菜を運んで得るお小遣いを楽しみに畑仕事をしている方もいる。自分が作った野菜を買ってもらい喜んでもらえることは、作る側の楽しみでもあり励みでも。

しかし、一家の中で野菜を運んでくれる人がいなくなれば、そこで畑仕事の楽しみも意欲も半減してしまう。作る楽しみや喜びを持ち続けられるシステムづくりの必要性を感じる。

(5) 外に向けて何が発信できるか

あさみから外に向けて何が発信できるか。朝田寺の牡丹・紫陽花・お寺の名前がついた朝田寺紅蓮等の花や、あさみ田楽や松阪牛肉入り味噌ごはん等の食文化、これらをどうすれば外に発信して人を集められるか。他に何かがあるか。何かを作っていけるのか。

(6) 朝見の農業は

朝見は肥沃な平地に恵まれ、田園風景が広がる米どころであるが、近年農業をやめ、大規模農家に耕作を委託する傾向が強い。将来的には、一部の大規模農家と苺やキュウリ等多角経営農業を目指す農家、肉牛の肥育を主とする畜産農家のみが残り、兼業農家が減少していくことが予想される。

とはいえ、朝見の基幹産業は農業であり、このまま衰退させることはできない。また、農道や河川等の維持管理を一部の農家に任せるには負担が大きすぎ、朝見まちづくりとしてもあさみ全体の景観や保安全管理に務めていかねばならない。

Ⅲ. 地域の将来像

朝見は、肥沃な平地に恵まれた田園が広がる農業を主産業とする地域であり、住民の人柄ものんびりして穏やかである。距離をおいて立地する10町の構成は、ここ何十年と変わることなく、それぞれに仲間意識が強く独立した社会を形成している。10町それぞれの仲間意識が、朝見地区という視線で物事を見、考え、行動できる大きな仲間に育てば、それはより大きな力となって、今後のまちづくりをより豊かなものにしていくと考える。私たちは、自分の住む足元だけでなく、『朝見全体のことを、みんなで考え、お互いに支え助け合い、行動できるまち』を目指し、まちづくりに取り組んでいかねばならない。

Ⅳ. 地域の目指す姿

『朝見のことをみんなで考え、お互いに支え助け合い、行動できるまち』を実現するため6つの柱を立てた。

(1) 《人的交流・教育・文化・福祉分野》

高齢者社会を迎え、世代を越えたコミュニケーションがとれる場や活動を大切に、年齢の異なる人たちがお互いに助け合い、支え合う、人に温かく優しい社会を実現するまちをつくる。

(2) 《防犯防災分野》

地域みんなで子どもや老人の安全をまもり、風水害や地震等の災害からひとりの犠牲者も出さず、物質的被害を最小限に止めるために、地域住民が力を合わせて、誰もが安心して暮らせる安全なまちをつくる。

(3) 《自然や環境・エコ分野》

農業を根幹とする朝見の河川・水田・畦畔・農道等の保全や美化を推進し、河川に住む生き物の命を大切に、ゴミの減量やゴミ捨てやペットを飼うマナーを守り、美しい景観のまちをつくる。

(4) 《地域振興分野》

地域の主産業である農業を応援できる人材を育てるとともに、幾つになっても生き生きと働ける場や環境が整ったまちをつくる。

(5) 《人材育成分野》

朝見から発信できるアイデアを実現する人材や仲間の育成に務め、自主財源の確保に努める。

(6) 《地域の伝統や文化財の分野》

地域の伝統や文化を知る機会や行事に参加する機会を通して、伝統を受け継ぎ、文化財を大切にするまちをつくる。

V. まちづくりの具体的計画

朝見まちづくり協議会が設立されて10年が経過し、それぞれの部会がそれぞれの活動を行っている。今回「あさみまちづくり計画書」を作成するにあたっては、個々の事業内容を検討し、ここに今後継続する事業を列挙した。ただし、個々の事業については、毎年検討し、廃棄したり新規の事業を企画したりすることについては、それぞれの部会の自主的運営によるものである。

(今後取り組む事業については太字ゴシックで示す)

(1) 《人的交流・教育・文化・福祉分野》

世代を越えたコミュニケーションが取れるまちづくり

(表5)

項 目		実 施 事 業		進捗状況		実施主体		
子育ての悩みを打ち明ける仲間		ひよこ教室		継続		青少年部会		
地区のみんなが一緒に参加できる行事づくり	世代を超えた地域全般に関わる行事	地区体育祭		5 月 継続		公民館		
		チーム対抗グランドゴルフ大会		6 月 継続				
		三世代ふれあいグランドゴルフ		10 月 継続				
		町対抗ビーチボールバレー大会		11 月 継続				
		文化祭		11 月 継続				
		朝見夏まつり		8 月 継続		まちづくり		
		朝見ふれあい芸能大会		12 月 継続		まちづくり		
	一般対象の行事	新春ボーリング大会		1 月 継続		公民館		
	高齢者対象の行事	高齢者学級	健康体操		10 月 継続			
			医師の健康講座		11 月 継続			
			なつかしの歌		12 月 継続			
			歴史探訪		継続			
			講演会		継続			
	東部管内ゲートボール大会 春・秋		5・10 月 継続					
	子どもとの関わりを持った行事	親子健やか体操		6 月 継続		公民館		
		親子ふれあい「星座観察会」		8 月 継続		公民館		
		ふれあい交流会		2 月 継続		青少年部会		
児童と三世代との交流会		12 月	継続	福祉部会	地区福祉会を福祉部会に統合し、一本化をする			
餅つき及び軽スポーツ大会		1 月		地区福祉会				
高齢者の6年生を送る会		2 月		地区福祉会				
高年齢者を支える行事		敬老会		9 月		地区福祉会		
ひとり暮らしの方にXマスケーキを		12 月	地区福祉会					
高年齢者宅配サービス		2 月	地区福祉会					
出前講座		随時		福祉部会				
認知症に対する理解と予防		認知症サポーター養成講座など			福祉部会			
子育てを応援できるしくみ		あさみきつづくらぶ（H27 年4 月～）		H27. 4 開始		青少年部会 小 P T A		

あいさつの輪を広げる 取り組み			青少年部会 小PTA
子どもも大人も安心して 遊べる公園づくり	場所の選定、設計、年次計画等、今後の課題である。		まちづくり

朝見の住民が憩える広場の選定については、「ひろば選定・設計委員会」を構成し、長期的な展望を持って対処する必要がある。

(2) 防犯防災分野 安心・安全のまちのづくり

(表 6)

項 目	実 施 事 業	進捗状況	実施主体
防犯に関わる活動 安全パトロール	防犯パトロール（青パト）	継続	防犯部会
	防犯灯の設置	継続	まちづくり
災害に備えての非常時対応	防災講演会	継続	防災部会
	ふれあい防災訓練	継続	
	家具転倒防止の啓発		
普段の付き合いを大切するまち	各町戸別の名簿づくり		防災部会 地区自治会
登下校時の子どもの見守り・声かけ			防犯部会 小学校 小学校PTA
通学路の点検			

災害時に備え、各町単位に、各戸の構成員・非常時の連絡先等の情報を収集した名簿作りをすることについて作成の意味の理解を図り、実現したい。

登下校時の子どもの見守り・声かけ、通学路の点検については、ある年だけでなく、毎年呼びかけ定例化していかなければならない。

(3) 《自然や環境・エコ分野》 自然環境を守り・美しいまちづくり

(表 7)

項 目	実 施 事 業	進捗状況	実施主体
自然を残す			環境部会 土地改良区
ゴミのない町	ゴミ集積所のマナー		自治会・環境部会
	資源回収の分別マナー		自治会
環境保護のための 美化運動	幹線水路一斉清掃美化活動	継続	環境部会
	ペットのマナー（犬の糞）	継続	環境部会
	花いっぱい運動	継続	まちづくり 小学校
生物の保護	魚救出作戦	継続	まちづくり 小学校
美化啓発推進事業	環境啓発ポスターコンクール	継続	環境部会

農業の効率化の中で、河川の水は春に流れ、秋には止まってしまう。圃場整備がなされた朝田・立田・和屋においては、パイプ給水となるため、排水のみの川となってしまう、自然が失われつつある。

畦畔や農道の整備や管理、休耕田や今後予想される耕作放棄地への対処等、農業問題や憩いの広場づくりも含め考えていく必要がある。

ゴミ出しや資源ごみ出しのルールについては、時間の経過とともにルーズになる傾向にあり、時を置いて啓発活動をしていく必要がある。

(4) 《地域振興分野》《人材育成分野》

(表 8)

項 目	実 施 事 業	進捗状況	実施主体
生涯の仕事としての農業	高齢者が生涯の仕事として農業に携われる環境づくり		畑で野菜を育てる仲間
朝見の農業	大規模農家や野菜・苺・畜産等の専業農家、兼業農家が誇りと希望がもてる農業経営ができる 農地や畦畔・農道・河川の環境を守る		
朝見から発信	あさみ田楽、味ごはん、〇〇〇等 〇〇〇 地元野菜直売 あさみの米		〇〇サークル

(5) 《地域の伝統や文化財の分野》

項 目	実 施 事 業	進捗状況	実施主体
周知・広報	写真入りカレンダーの作成		歴史サークル
	史跡・文化財地図の作成		
	あさみウォーキング		

(4)(5)については、新しく提案する分野であり、まちづくりの中に、検討・推進するサークルを作り、取り組んでいかねばならないと考える。

その他

(附1) 朝見まちづくりがめざすまち（図化したもの）

(附2) 朝見の人口分布（平成26年8月）

みんな集おう 楽しもう 朝見夏まつり



かき氷に風船つり、バザーの大人気



『しょんがい』を大人も子供も輪になって



朝見ふれあい芸術大会

歌謡曲にポップス
フラダンスや太極拳等のクラブ発表
に会場も盛り上がります。





防災部会

防災訓練は10回を数えます

←
倒壊した建物
からけが人を
救出

→
初期消火訓練



←
車いすの方の
避難訓練
さくらテラス
の方も参加

→
バケツリレー
の初期消火



→
小学生も
参加して



平成22年12月4日、三重県防災大賞受賞

防犯部会

防犯パトロール
青パト大活躍
小学生も体験



初代のパトロール車
個人の車で始まり、
ご厚意でいただいた
車が初代のパトロー
ル車となりました



二代目青パト



河川クリーン大作戦

美味しいお米ができますように、子どもたちも参加しています。



秋から冬に水が枯れる小川の魚たちを学校の簡易池に移し、春に小川にもどします。

青少年育成部

おまわりさんに来てもらって
お話しをききました。
平成 27 年 4 月からは念願のき
っずくらぶも誕生し、働くお母
さんの応援を始めました

福祉部会

クリスマス会には大勢の子どもたちが集まりました

地域環境部会



魚救出作戦

水枯れの川から守ろう



出前講座

お呼びがあれば地区の
公民館に出向きます



太極拳
出前講座



駐在さんから「おれおれサギ」の話も

あさみ田楽



朝田寺の牡丹
に合わせ、境内
にあさみ田楽
の出店を
一盆 400 円



あさみ牛めし

松阪牛まつりに、毎年朝見まちづくりのブースを開いています。



朝見まちづくりに視察団体が



地域計画策定委員会委員

安達 薫	榎本義讓	小林静雄
小林 豊	田上勉史	田中祐治
田村 正	殿内裕哉	永田憲明
野林恵利子	野呂昌美	長谷川光生
早川隆史	堀井秀郎	東出照男
牧戸美津子		